

2月5日の朝日新聞「天声人語」に首相秘書官荒井勝喜さんが、性的少数者や同性婚をめぐる差別的な発言をしたことが問題になったが「同性婚を法制化したら反対者が日本を離れる」のではなく立法機関である国会が無策だから日本を離れて海外で婚姻届けを出すカップルがいると書かれています。1月～2月の初めにかけて、朝日新聞に「わたしが日本を出た理由」というコラムが7回にわたって連載され、日本社会の閉鎖性が問題として語られていました。

今朝の礼拝の為の聖書の箇所は2つの段落から成り立っていますが、最初の段落18～20節ではイエス様が人々の受け止め方に耳を傾けておられます。2番目の段落21～27節では、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」とあります。「自分の十字架」とは何でしょうか。十字架はローマ帝国に逆らう者に対する処刑台でした。英語ではCROSSと言い、元々「交差」とか「岐路」とか、「すれ違い」とか「怒っている」という意味であると辞書に書かれています。

イエス様に従えば異なる立場が産み出す怒りや対立を引き受けて自分の命を捨てることになる。「自分を捨て」の「捨てる」はギリシャ語でアルネーサツウ「偽り」「背き」「拒み」という意味で、イエス様に従うなら十字架を背負うが自分の「命」プシュケー「心」「魂」を救うと言われるのです。漢字でも「捨てる」という字には十字架が真ん中に付いていますが、「捨る」という字には十字架がありません。十字架を捨てて命拾いするか、十字架を引き受けて命を失うか、あなたはどうしますか？とイエス様は問いかけられたのです。

「自分の十字架を背負って」の「自分」はギリシャ語本文ではアウトウ「彼の」が使われていますが、本来ギリシャ語の「自分」はエゴイズムのエゴです。私達は皆自分中心にしか考えられません。人間の社会はエゴイズムがクロスする処です。何の悪気もなくエゴイズム「利己的」にしか私達は生きられません。それを無理してイエス様に従おうとすると自分にとって自然な言動ではなく取って付けたような無理した言動になります。だから渡辺善太という学者は「教会は偽善者を生み出す処である」と言いました。この分岐点 CROSS に立っているのが私達です。どうしたら良いのだと悩むことが十字架を背負うことの第一歩です。